



Tahiti Ora /タヒチアン・ダンス・ショー «Hiva» について
(Tahiti Ora より提供された文面を日本語に翻訳したものです。)

このタヒチアン・ダンス・ショー「HIVA」は、私たち(タヒチ)の島が最初にポリネシア人によって発見されてから、今日タヒチアン・ダンスが文化的に洗練されて最高潮に達するまでの歴史を航海する発見の物語です。

3000 年以上前、東南アジアからやってきた人々が次第に太平洋に移住していきました。彼らは逆風の中、ダブル・カヌーに乗り、5000km 以上を旅して東へ移動して、未踏の闇を超え、太陽が輝く火山諸島にたどり着き、火山を世界の光としてたたえました。この島々はヒヴァと呼ばれるようになり、数世紀後には、別の人々によってマルケサス諸島と呼ばれるようになりました。

数世紀後にはハワイ諸島に人々が居住しました。1500 年後、ハワイアン文化では独特の音楽とフラと呼ばれる踊りができました。この紀元後 400~600 年に、乗組員たちはポリネシア三角地帯の東端にあるイースター島と呼ばれるラパ・ヌイを発見しました。

1595 年、最初のポリネシア人のグループが到着した 1000 年以上後、キエロの率いるスペインのグループがマルケサス諸島の南東にある島ファトゥ・ヒヴァを発見しました。しかし、これは島の住人にとって悲惨な結果を招き、多くの人々が殺されました。

2 世紀後の 1767 年にタヒチは伝説となりました。「光のヨーロッパ号」がブーゲンヴィル島の New Cytherea (クックのいう Otaheiti) を発見したのです。クックは Otaheite は地上で最も美しい場所であると記しました。クックはこの土地の人々を最もハンサムで愛すべき人々であり、踊りが歓迎の手段であることから社会的にも洗練された人々であると称えました。タパ・ダンスがよい例です。タパ布を身にまとった女性ダンサーは贈り物だったと信じられていますが、贈り物として価値があったのは女性ではなく、タパでした。

1797 年にロンドン宣教師協会の宣教師たちはチーフをキリスト教徒に改宗することに成功し、キリスト教は公的な宗教となりました。1819 年のポマレ法により、踊りは禁止され、タヒチの人々にとってパラダイスといわれるような土地さえ退屈な場所になってしまいました。ママイアと呼ばれる抵抗運動を通じて、タヒチの人々は 10 年間、踊りとポリネシアの神々を崇拝し続けました。若き女王ポマレ 4 世は宣教師による厳しい教育から逃れ、ママイア運動の支持者となりました。しかし、この運動は宣教師が支配する社会とチーフの権力に対する抵抗として、1834 年に鎮圧されました。

この結果、踊りは痛々しいほど無感動なものとなり、タヒチの人々の満たされることのない欲望と夢の奥に追いやられてしまったのです。フランス政府は舞踊を再活性化させようと、ワルツや他の歌唱を推進しましたが、タヒチの踊りには制約が化せられ、特定の種類しか踊ることができませんでした。1895 年 7 月 14 日のお祭りの期間によりやく踊りが公認されましたが、女性ダンサーの伝統的な衣装は宣教師の服に置き換えられ、男性はズボンとスカートに身を着けました。振り付けは軍隊の行進を真似ただけの味気ないものでした。

激変の 20 世紀はタヒチの文化と踊りにも変化をもたらしました。1929 年のムメアウの映画「タブー」に続き、1939 年には「バウンティー号の反乱」などの他の映画が踊りを取り上げるきっかけとなりました。1960 年代初頭にはマドレーヌ・モウがタヒチアン・ダンスをピューリタニズムから解放しました。新しい振り付けがタヒチ中に広まり、ダンスはタヒチ社会においてかつての地位を取り戻したのです。マリー・アユーとオーガスティンの著名な仕立て師による最も美しいドレスを着た女性たちが遠い土地からやってきた水夫たちとパペーテのクインズ・バーにいたのがありふれた光景となり、タヒチアン・ダンスは再び活気を取り戻しました。